

平成29年度京都市産業廃棄物3R推進会議でいただいた御意見

京都市産業廃棄物3R推進会議（以下「会議」という。）は、平成23年3月に策定した第3次京都市産業廃棄物処理指導計画（以下「計画」という。）を推進することを目的として、平成23年8月10日から開催しています。

平成29年度は、3回の会議を開催しました。

1 会議の開催状況

第1回 平成29年12月18日（月）

第2回 平成30年 2月 8日（木）

第3回 平成30年 3月26日（月）

2 いただいた主な御意見

（第1回）各施策の取組状況について

計画に掲げている排出事業者、処理業者及び市民に対する16項目の産業廃棄物処理に係る具体的な施策について、各施策の取組状況を報告し、委員からは、次のような意見をいただきました。

- 計画の中間目標値（平成27年度）に対する達成度の結果について、更なる検証が必要であると考えます。発生量が大幅に減少し、最終目標値を達成した要因等を明確にしたうえで、今後の方向性について議論できれば良いと思う。
- 最終処分地が逼迫していることが以前から問題視されており、最終処分量を減らすための施策についても検討すべきである。
- 中国の廃棄物輸入規制により、廃プラスチックを国内で廃棄物として処理せざるをえない状況が出てきており、最終処分量が増加する可能性がある。

（第2回）PCB廃棄物の適正な処理の推進（JESCO大阪の視察）について

JESCO大阪PCB廃棄物処理施設の視察を実施し、委員からは、次のような意見をいただきました。

- 安心、安全を最優先にした立派な施設で、処理方法から安全対策まで学べて有意義であった。また、処理費用が高いのが印象的であった。
- 特に中小企業への周知を徹底すべきであり、その役割を行政に担ってほしい。

（第3回）PCB廃棄物の適正処理対策について

本市が平成29年度中に取り組んだ、PCB廃棄物の適正処理対策について報告を行い、委員からは、次のような意見をいただきました。

- 掘り起こし調査の進捗が気になる。自家用電気工作物設置事業者への掘り起こし調査は未回答の事業者が多く、また、蛍光灯安定器の掘り起こし調査はデータ整理に難攻しているとのことで、期限内に処理が完了するか心配である。今後も引き続き、取組を進めて欲しい。
- 各事業者への周知のみならず、業界団体への周知も効果的であると思う。
- PCB廃棄物を知っている世代は限られているため、その年代をターゲットにした広報活動をすれば、効果が高いと思われる。
- 督促文書には、PCBの基礎情報や処理料金の目安を記載すれば、知らない人もイメージしやすいと思う。また、アンケート調査に回答しなかった場合は不利益になることを周知することも必要ではないか。

3 平成29年度委員等名簿

(1) 委員

氏名	役職等
石田 葉月 (副委員長)	同志社大学経済学部教授 (資源・エネルギー経済)
小谷 真理	同志社大学政策学部准教授 (行政法, 環境法)
佐藤 辰巳	(公社) 京都工業会 業務推進役
高岡 昌輝 (委員長)	京都大学大学院地球環境学堂教授 (廃棄物処理)
高橋 かつ子	公募委員 (3R・低炭素社会検定 3R 部門合格者)
中川 雅貴	京都商工会議所 産業振興部 次長
中澤 哲夫	(一社) 京都府建設業協会 京都支部 常任理事
長田 和志	(株) 日本ウエスト 代表取締役社長
花嶋 温子	大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科講師 (廃棄物処理)
矢野 正	公募委員
山口 靖弘	京都府中小企業団体中央会 事務局長
山田 一成	京都府産業廃棄物3R支援センター センター長
渡辺 義文	京都府産業廃棄物協会 専務理事

(五十音順, 敬称略。役職等は平成29年度当初のもの)

(2) オブザーバー

氏名	役職等
池田 道治	京都府環境部 循環型社会推進課長

(敬称略。役職等は平成29年度当初のもの)